

東京大学大学院人文社会系研究科

次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣帰国報告

○最終報告提出日

2012年6月20日

○派遣者の基本情報

氏名：鈴木親彦

所属先：人文社会系研究科文化資源学研究専攻文化経営学専門分野 博士後期課程1年

派遣形態：平成24年夏学期推奨プログラム

○研究課題名

人文情報学が開く専門書出版の可能性について

○派遣先での活動

(1) 派遣先の基本情報

国名：カナダ (Canada)

都市名：ヴィクトリア (Victoria)

研究機関名：ヴィクトリア大学 (University of Victoria)

プログラム名：デジタルヒューマニティーズ・サマーインスティテュート 2012 (Digital Humanities Summer Institute 2012、略称 DHSI2012)

(2) 派遣期間

出発日：2012年6月3日

帰国日：2012年6月10日

総日数：8日間

○主な研究成果

(1) 当初の計画の概要：

派遣者が博士後期課程で研究している日本の出版流通では、デジタル出版が大きな問題となっている。人文情報学は人文学におけるテキストのデジタル化に直接関わり、概念と技術両面で既に大きな蓄積がある分野である。人文情報学の応用によって、従来専門的な分業で行われていた出版を、研究者の共同作業によって担い得る可能性も出てきており、流通の形態を変化させる可能性も生まれている。

このような状況を踏まえ、既にあるテキストをどのように電子化し社会に蓄積するかと

いう問題も含めて、人文情報学が開く出版の可能性について研究する

## (2) 実際に達成された成果：

派遣先では、DHSI2012 のコースとして開催された、「テキスト・エンコーディング基礎と応用 (Text Encoding Fundamentals and their Application)」へ参加した。コースの内容はXMLを用いて、人文学の研究資料をデジタル化するためTEI(Text Encoding Institute) 準拠のガイドラインを学ぶというものである。このコースは2004年にDHSIの活動が開始されて以来毎年開催されており、今回講師を務めたブラウン大学のJulia Flandersは毎年講師を務めている。そのため、必要な情報が的確にまとまっており、出版を含むテキストのデジタル化の基礎とケーススタディーとしての実践例を知ることができた。

またこのコースには、大学院生のみでなく、すでに人文学において一定の成果を上げている研究者も新たな知識を身に着けるために参加していた。そのため、専門的な見地から行われる質問および議論からも、単なる理論としてではなく、実践的な研究に直結する研究手法としてTEIを学ぶことができた。

コースの前後に開催される各種セッションにおいても、ヴィクトリア大学の出版部門担当者によるTEIと出版についての報告が行われ、当初の計画以上に専門書出版および人文学のデジタル化についての最新状況を知ることができた。また、コースおよび各種交流を通して、人文情報学に関わる第一級の研究者とのネットワークを作ることができたことも大きな収穫であった。

全体として計画以上の成果を獲得できた非常に有意義な派遣プログラムであった。

## (3) 今後の研究展望

今回の派遣においては、TEIを中心として、テキストの電子化に関する人文情報学の手法の基礎を身に着けることができた。現在、東京大学大学院人文社会系研究科でもTEIについての講義が行われている。6月20日に特別セッションと言う形でまた別の視点を導入することで、まずフィードバックを行うことができた。今後も、東京大学における人文情報学関係の講義へのフィードバックを継続していく。

計画していた出版に関する研究は、ビジネスとの関係もあり、状況が日々変化している。今後も継続して情報収集を行うとともに、自身のテーマである出版流通の研究に生かしていく。